

JA ながさき西海『長崎和牛振興大会』が開催されました

令和8年7月14日（火）、松浦市文化会館において、JA ながさき西海主催（共催：県北地域和牛改良推進協議会）による、長崎和牛振興大会が開催され、県北地域の和牛生産者が、魅力ある信頼される産地として、今後も末永く長崎和牛の「産地力」を維持していくことを再認識し、繁殖肥育連携による「長崎産まれ、長崎育ちの長崎和牛」の銘柄確立や、地域担い手の育成、適正管理と平均分娩間隔の短縮による安定品質と生産性の維持・向上など生産者自らが実践していくことを決議しました。

本大会は、コスト高や高齢化により縮小傾向にある県北地域の肉用牛生産の維持・拡大に向けて、生産者と関係機関が結集して取組みを進めていくことを確認するために開催されたものです。



JA 和牛繁殖部会連絡協議会石井会長挨拶

大会では、生産者と購買者の立場から3題の講演がありました。

平戸市の株式会社グチファームの田口公平氏からは、「持続的な畜産経営を目指して」と題し、低コスト牛舎の整備や一年一産を実現する飼養管理、玉ねぎ栽培を取り入れた複合経営の取組みについて紹介がありました。

松浦市の市山浩司氏からは、「共進会への想い」と題して、第12回全鹿児島県大会に出場した経験をもとに、地域とのつながりや仲間の大切さ、共進会への取組みや改良を積み重ねていくことの重要性について力強い発表がありました。

全農畜産生産部生産基盤課の木村修幸氏からは、「購買者から見た魅力ある家畜市場」と題して、全国的な素牛情勢、購買者の視点からみた平戸中央市場の課題について解説、産地の維持や母牛の更新の必要性などについて説明がありました。

その後の質疑応答では、会場の生産者から魅力ある市場や全共への取組みに関する質問があり、発表者から丁寧な回答がありました。



発表者の皆さん

最後は、若手生産者による大会決議、ガンバロー三唱で締めくくりました。